

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 089	提案機関名 自然環境保全センター
<b>要望問題</b> 管理捕獲等で使用する猟犬の位置探索システムの開発	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模 (面積、数量等) 】 県内で行われているシカの捕獲は、通常、複数の射手を配置した範囲に猟犬を入れ、捕獲対象の動物を追い出す組猟で行われている。しかしながら、組猟では、犬が射手のいる範囲を越えて獲物を追ってしまうことが多く、捕獲を中断して猟犬を探索しなければならないため、作業効率が悪いという欠点がある。現在、適法な動物追跡用電波発信機は、山間地を短時間で広域移動する猟犬への使用には限界があり、一方で、大型動物の行動追跡用に普及しているGPS受信機は、現場でのリアルタイムでの情報収集が困難であり、また、長期追跡用にバッテリー重量が重くなっている場合が多いため、猟犬に使用することはできない。 リアルタイムで野生動物の位置情報を送受信する適法なシステム (GPS-TX 等) は試験研究ベースで開発されつつある。しかしながら、いずれも大型野生動物の長期追跡等の技術開発として進められており、短時間の猟犬の位置探索用には開発されていない。 今後、捕獲の担い手が減少することは確実であることから、効率のよい捕獲実施のための技術開発が求められる。現在、試験的な技術開発が進んでいるGPSデータの送受信システムを猟犬探索用に改良し、組猟の欠点を補うことで、効率的な捕獲の実施、計画的な個体数調整を図ることが可能となることから、大学・民間の研究機関との共同研究によるシステム開発を望む。	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	①農業技術センター②畜産技術センター③水産技術センター④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	自然環境保全センター	<b>担当部所</b>	研究連携課
<b>対応区分</b>	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b>	(①、②、④の場合)		
<b>対応の内容等</b>	GPSデータの送受信システムの改良、小型化の開発及びその活用は通信機器の研究開発の領域で、事業効果向上のための業務ですので、事業実施部門において機器開発とその効果検証のためのフィールドの提供という形で大学や民間研究機関への委託が適当と考えます。 研究部門でも、他県の事例などの情報収集をするほか、効果の検証に際しては、既存のGISを活用した機器の効果解析について連携を図りながら進めていきたいと考えています。		
<b>解決予定年限</b>	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
<b>備考</b>			